

中央社保協ニュース

18-8号 発行・2019年7月24日 中央社会保障推進協議会

中央社保学校 in かなざわ 魅力の分科会紹介①

第47回中央社保学校は、8月29日～31日に金沢市で開催されます。今回の「社保学校」の魅力のひとつが、2日目(30日)の分科会です。

3人の講師の方から各分科会にのぞむ抱負を語っていただきました。是非とも、中央社保学校に参加していただき、これらの分会会でお会いしましょう！

2日目 テーマ別 分科会 9:00開場 9:30～12:00 [会場] 金沢商工会議所会館 金沢市尾山町9-13

分科会 1 社会保障入門講座 (会場は石川県教育会館会議室) 講師 鈴木 静氏 愛媛大学教授	分科会 2 介護保険の現状と対抗軸 — 介護保障に向けて 講師 井口克郎氏 神戸大学准教授	分科会 3 医療制度改革の 現状と対抗軸 講師 工藤浩司氏 石川県保険医協会事務局長
分科会 4 年金制度について: 最低保障年金制度の 第3次提言を学ぶ 講師 加納 忠氏 全日本年金者組合大阪府本部長	分科会 5 生活保護は人間らしく 生きるための岩 講師 村田隆史氏 青森県立保健大学講師	分科会 6 社会保障としての 国民健康保険を学ぶ 講師 長友薫輝氏 三重短期大学教授

分科会 1・鈴木静さん・・・社会保障入門講座

2016年におきた津久井やまゆり園殺傷事件から3年がたちました。人権の砦であるべき福祉施設内で、人権のにない手であるべき職員だった男性(犯行当時は辞めていました)が、知的障害のある人ら19人の命を奪いました。職員だった男性は、2020年初頭に刑事裁判が始まる予定で、現在は拘置所にいます。これまで公表されている本人の手記やインタビューにて、生きる価値がない人間を「心失者」と呼び、安楽死されるべきだと主張しています。事件直後から、現在に至るまで加害男性の主張は変わっていません。このこと自体が深刻な問題であるが、さらに深刻なのは日本社会のなかで、特にインターネット上では、加害男性の主張に賛同する雰囲気があることです。



生きる価値がある者となない者を選別する生命の価値づけ、人間の序列をつけることが現代に復活してきていることに憤りをもって、改めて社会保障とは何かを、ともに考えたいと思います。

当日の講座では、津久井やまゆり園殺傷事件を切り口にし、社会保障の歴史を振り返り、現在の社会保障の原理原則を確認し、どのように現行制度に反映されているのか、あるいはないのかを確認します。さらに、人権としての社会保障確立のための課題について、参加者の皆さんと考えていきたいと思っています。

なお、母校は金沢大学です。石川、富山、福井等の北陸の社会保障分野でご活躍されている方々や関心をもつ方々にお会いできるのを楽しみにしています。金沢を拠点とする医療・福祉問題研究会では、石川県内の諸問題を中心に取り組むなかで、金沢大学名誉教授の井上英夫先生が「石川が変われば、日本が変わる」と繰り返し言われていました。人間の尊厳を踏みにじるような事件が続く日本を、この石川から変えていきましょう！

分科会 4・加納忠さん…最低保障年金制度の第3次提言を学ぶ



6月3日、金融庁市場審議会ワーキンググループの「報告」が発表され、現在40歳代のモデル年金では、「2000万円以上の老後資金を用意しなければ悲惨な老後生活！」と新聞、テレビで一斉に報じられました。7月参議院選挙の直前、一挙に「年金2000万円不足問題」が選挙の大争点となりました。年金者組合には、「マクロ経済スライドってどういうこと？」から「年金の賦課方式と積立方式ってどういう意味？」「積立金を取り崩したら、若い人の将来の年金は払えなくなるのでは？」まで多くの方々からの問い合わせがありました。また「急遽年金学習会をしたいから話をしに来てください」

との要請も相次ぎました。テレビ各局からも、低年金の現実に不安を募らせる年金受給者を紹介してほしいとの依頼もあり、格差の激しい日本の年金制度の問題点、年金引き下げに怒る高齢者の現実などが放映されました。

しかしながら、一方では将来不安と共に「やっぱり自己責任で資産形成に努めなければならないのか・・・」の声も紹介されていました。

年金者組合は、4年前から5200人を超える原告を募り、全国39地方裁判所で年金引き下げ違憲裁判をたたかっています。参議院選挙で年金問題は大きな争点になりましたが、その具体的な「解決策」が多くの国民の中で共有されるまでには至っていないと思います。日本国憲法の社会保障理念を活かす年金制度、最低保障年金制度の創設の願いを多くの人々と共有することをめざしています。

社会保障学校での参加者の皆さんとの意見交換や質の疑に学びながら、私たちの「最低保障年金制度の提言（第3次事案）」がより豊かに、より実践的に鍛えられること、そして皆さんの全国での社会保障運動に少しでも寄与できるよう力を尽くしたいと思います。

分科会 5・村田隆史さん…生活保護は人間らしく生きるための砦

私が大学に入学したのは 2003 年で、大学院に入学したのは 2007 年でした。その頃は大学の講義でも、「格差社会」について取り上げられることが多く、「日本社会に格差は存在するのか」が議論されていました。そして、貧困については「許容できない範囲の格差」と定義されることが多く、貧困が存在することについては否定的な立場を取る研究者が多数でした。



2019 年になり、私が自己紹介などで「貧困問題と社会保障を専門に研究しています」と言っても、誰も驚かなくなりました。私のゼミ生が公務員試験の志望動機に「貧困問題に関心があり、その問題を解決するためにケースワーカーになりたい」と書いても、面接では特に突っ込まれることがなく、合格を勝ち取ってきます。この 10 年間で貧困は「存在するか否か」ではなく、「存在することが前提」になったと実感します。

様々な公的機関のデータからでも、日本には貧困が存在することは確かだとわかります。それにも関わらず、社会保障に関しては負担増・給付削減が続いています。社会保障を必要とする人々の生活は苦しくなるばかりです。そんな時に、「最後のセーフティネット」としての役割を果たすのが生活保護制度なのです。

その生活保護制度も「最後のセーフティネット」で、なおかつ、他の社会保障の基準として使われることが多いこともあり、社会保障水準の引き下げを狙う勢力からは意図的に基準が引き下げられようとしています（現実的に引き下げられています）。私たちは生活保護が社会保障水準を決定する要であり、だからこそ「人間らしく生きるための砦」として守っていく必要があるのではないのでしょうか。

本分科会では、生活保護制度が社会保障の要であることを学ぶとともに、生活保護制度を「最後のセーフティネット」として、社会保障全体を発展させるためにはどうしたらよいのかを一緒に考えたいと思います。

第47回
～人権といのちが輝く社会保障をともに～

中央社会保障学校

in いしかわ

2019年 8月 29日(土) → 31日(土)

会場 石川県教育会館3階ホール
分科会会場 金沢商工会議所会館(2日限) 石川県教育会館

<p>1日目 8/29(土) 13:00 開場 13:30～17:00</p> <p>学習講演 [会場] 石川県教育会館</p> <p>1 「憲法9条を巡る情勢と私たちの課題」 講師 小森陽一氏(日本文学専攻/東京大学教授 2019年3月退任)</p> <p>2 「平和的生存権——人権としての社会保障の現状と私たちの課題」 講師 井上英夫氏(法学者/金沢大学名誉教授)</p> <p>講演後 フロア質疑 & 小森氏井上氏 対談</p>	<p>2日目 8/30(日) 9:00 開場 9:30～16:30</p> <p>テーマ別分科会 [会場] 裏面 各分科会の詳細は裏面をご覧ください</p> <p>貧困問題シンポジウム 13:30～16:30 [会場] 石川県教育会館 総合司会 鈴木 静氏(愛媛大学教授)</p> <p>1 基調講演 講師 長友薫輝氏(三重短期大学教授)</p> <p>2 シンポジウム 福井・富山・石川 3県からの報告</p>
<p>明日からの運動に役立つ企画がいっぱい。職場・地域から誘い合って参加しましょう!</p> <p>1. 参加費 【29-30日】1日 2000円 【31日】500円</p> <p>2. 参加・宿泊申し込み 参加・宿泊(各自または紹介)申し込みは別紙にて申し込み下さい。詳細は公式HPをご覧ください。 中央社保協 <input type="text"/> 検索</p>	<p>3日目 8/31(土) 9:00 開場 9:30～12:00</p> <p>市民公開講座 [会場] 石川県教育会館</p> <p>「消費税と社会保障」 講師 斎藤貴男氏(ジャーナリスト)</p>

参加申込み締め切り迫る！

8/15

